



地方創生にかかわる  
中小企業の役割

04

# 日本地域創生学会 の設立



Human Delight 株式会社 代表取締役社長  
野田 万起子 のだ まきこ

静岡県出身。東京国際大学経済学部国際学科卒業。米国オレゴン州TIUアメリカ校卒業。1993年株式会社ベンチャー・リンク入社。2010年同社取締役就任。11年同グループのMBOにより独立。インクグロー株式会社代表取締役社長を務めたのち、15年より現職。地方自治体の地方創生プロモーションの支援に従事する一方、経済産業省「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」の静岡県主宰としても活躍している。

平成29年8月26日、東京大学駒場キャンパスにて「日本地域創生学会」の設立大会が行われました。いわゆる、本学会の発足式なのですが、既に8部会10支部が構成され、昨年中には全国8会場（札幌市、高知市、日南市、東京都、札幌市、沖縄市、北九州市、大阪市・開催順）で地域創生フォーラムが開催されました。このスピード感たるや、今の時代の企業経営に求められていることそのものだと感じています。

## なぜ今、 地域創生学会が誕生したのか

本学会は、会長の木村俊昭氏（東京農業大学教授）を筆頭に、4つの大学（埼玉大学、東京藝術大

感動・感謝のある社会を創発することをミッションとしてしています。

まさに、この目的と使命に賛同する人たちが全国から集っています。参画している人たちは、行政を中心に既に地域創生に関わり活動していますが、ある時期に「壁」にぶつかります。経営者でも大学院で経営学を学び直すのは、限界突破をするために必要な勉強です。知恵と行動力に前に進み続けることが出来る経営者はいませんが、そのような経営者こそ、経営の「原理・原則」をしっかり勉強し、情報収集のためのネットワークを持っています。本学会は、地域創生に関わるリーダーが学術的研究や情報収集のネットワークを求めるからこそ、今、設立されたのだと考えます。

## 地域の未来を担うキーパーソン 人財の養成とネットワーク構築

学会長である木村氏は、これまでも全国の自治体の地域創生にご尽力されてきました。行政の中では大変有名なシテイマネージャーです。木村氏は、日本の地域の現状は、人口減少や高齢化の進展など、愛着心を持ち住み暮らす人々のモチベーションが低下し、年々、まちの底力も弱体化しているとおっしゃいます。また、今すぐにその状態から脱却することは容易ではなく、大切なのは、自分たちの力でできる「まち育て」「ひと育て」の構想とその実現だと考えていらつしやいます。企業経営で言えば、「戦略的事業計画の策定と事業計画に基づく戦略的人財育成計画の策定」をし、それを実現していくのと同じです。

今、地域創生に関しては、研究と理論、具体的な事業構想とその実現が喫緊の課題となっており、ま

学、S・I大東京農業大学）の教授が理事をつとめられ、特別顧問には国政に関わる方々がアドバイザーとして参画されています。実際の活動は企業・団体役員、行政、大学研究者、経営者、議員、大学生、大学院生が学会員となり、既に地域で活躍している内容を事例研究としながら、それを昇華させるために動いています。

- 学会の目的と使命は、
- 日本の各地域の特性を大切にしながら、将来の希望と活力をもたらすため、地域創生に関する学術的研究や提言・実践を共に、地域を担う人財を養成することを目的とし、
  - 地域が輝きを取り戻し、人々が活気に溢れ、笑顔・

た、地域のリーダーやプロデュースをする人財の養成と定着は欠かせない要素です。このような状況の中、地域の未来を担うキーパーソン人財の養成とネットワーク（仲間づくり）を構築することが求められます。

- 本学会の主な事業内容は、
- A. 地域創生に関する研究・調査・実践  
国・自治体・民間に対する提言・提案
  - B. 地域創生の人財養成（講座・研修・資格）
  - C. 地域創生活動・地域産業振興の支援自治体などへのコンサルティング
  - D. 地域創生に携わる個人・企業・団体の交流  
研究会・交流会の開催
  - E. 地域創生に関する情報発信

## 地域が輝きを取り戻すためには

この内容で、地域創生の課題解決に向けて進められています。

地域が輝きを取り戻すためには、まず、私たち自身が「知り」「気づき」「行動」し、知識を知恵としていくことです。情熱を持ち、「できない」「できる」に変え、構想を実現する人を孤立させないことです。そのために、産学官金公民の様々なひとが結びつき、地域と地域、人と人が、広聴・傾聴・対話・交流をしていくことが大切になってくるでしょう。

地域の輝きを一層研ぐ機会（場）として、今後の日本地域創生学会の活動が注目されることになることを確信しています。

先